

説明書(手術、麻酔、治療法)

私は、患者 _____ 様の(手術、麻酔、治療法)について、次のとおり説明いたしました。

現在の診断名、原因

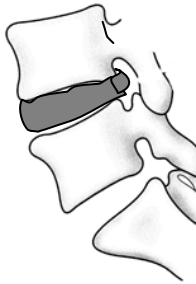
- 1 診断名： 腰部椎間板ヘルニア()
- 2 原因： 腰部の椎間板という軟骨が脱出して神経が圧迫されて、腰痛や下肢の症状、坐骨神経痛などの症状が生じています。

予定されている手術の名称と方法

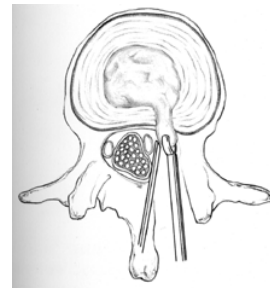
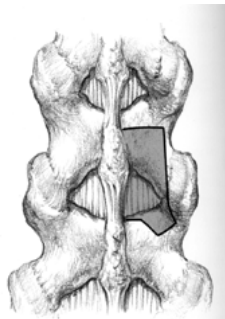
- 1 麻酔： 全身麻酔、腹臥位(腹ばい)
- 2 手術名： 腰部椎間板ヘルニア摘出術
- 3 方法： 腰部の中央を切開します。腰椎の一部を切除し、椎間板ヘルニアを摘出します。

4 手術日： 月 日

5 手術時間： 時間 + 麻酔、準備時間 1時間半
(場合により延長することがあります)



ヘルニア



椎間板ヘルニアの
切除

手術に伴い期待される効果と限界

- 1 効果: 坐骨神経症状の軽減が期待されます(約70%)。
- 2 限界: 症状の一部が残存する可能性があります。とくに、しびれ感が残存する可能性があります(約50%)。椎間板の変性は残るので、ある程度、腰痛は残存します(75%)。約10%に再発がみられます。手術後は、再発防止のために、日常生活に注意が必要です。

手術を受けない場合に予測される病状の推移と可能な他の治療法

- 1 予測される病状の推移: 腰痛、下肢痛、しびれなどが持続することが予測されます。
- 2 可能な他の治療法: 腰椎の安静、鎮痛剤、神経ブロック、牽引などが考えられます。

予測される合併症とその危険性

- 1 麻酔と手術に伴う合併症: 稀ではありますが、麻酔薬のアレルギー(悪性高熱)、気管の腫脹、血圧低下、肺炎、脳梗塞、脳出血、心筋梗塞、などの可能性があります。死亡する可能性もあります(1%未満)。
- 2 手術操作によって、神経を障害する可能性があります、麻痺の悪化もありえます(数%)。
- 3 感染症: 手術では最大限清潔な操作を行っておりますが、感染の危険はゼロではありません(約1%)。
- 4 血栓症: 術後に足の静脈内で血が固まり詰まることがあります。この場合は足がむくむだけでなく、血の固まりが心臓や肺などにとび可能性があります。心臓や肺などの血管が詰まると命にかかわります(1%未満)。定期的に検査を行って、この徴候が見られたら固まりを溶かすよう点滴を行います。
- 5 輸血に伴う合併症: 手術中、あるいは手術後に必要になった場合、輸血する可能性があります。その場合、輸血による副作用が出現する可能性があります。
- 6 その他: 硬膜外血腫(約1%)、脊髄液漏出、術中の体位(腹臥位)による皮膚圧迫(顔面、眼球、胸部、骨盤部など)・大腿皮神経麻痺(大腿前面のしびれ感)、長期的に硬膜周囲の癒着、硬膜内の神経癒着、椎弓切除による脊椎の不安定性など。

予測できない偶発症の可能性とそれに対する対応策

偶発的な合併症が出現する危険性もありますが、これらに対しては適宜病状を説明した上で治療に努めます。

説明方法

(口頭、診療録、画像、図、模型、その他)

上記方法を使って説明をしました。

何かわからないことがありましたら、十分にご理解できるまでご質問下さい。

同席者

・患者側氏名:

・病院側氏名:

平成 年 月 日

岡山大学医学部附属病院整形外科

主治医(署名) _____

医師(署名) _____

承諾書

私は現在の病状及び手術、麻酔、治療法の必要性とその内容、これに伴う危険性について十分な説明を受け、理解しましたので、その実施を承諾します。なお、実施中に緊急の処置を行う必要性が生じた場合には、適宜処置されることについても承諾します。また今後医療の発展のためにレントゲンや検査結果を研究等に使用する事も同意します。

平成 年 月 日

患者 住所

氏名(署名) _____

同意者 住所

氏名(署名) _____

(患者との続柄)

病院長殿